

戦時資料と戦後 80 年平和展

枝村三郎

近現代史学習と平和教育

今年は戦後 80 年である。私は 1938 年旧満州に生まれ、45 年 4 月国民学校に入学した。少年期に悲惨な戦争体験をし、高校社会科教師になり近-現代史教育を重視した。私は金谷・島田・榛原高校で毎年三年生に日本史 4 単位で、原始古代から現代史まで通史を教えた。次のような授業計画を立てて、講義式による受験教育を一切行わなかった。

- 1、年間 100 時間の授業計画を立て、毎時間の学習課題を設定した。
- 2、毎時間の学習課題を、生徒に「問いかけ授業」で問題討議学習とした。
- 3、三学期は現代史学習にして、戦争・敗戦・戦後史を 10 時間設定した。

授業はテレビで映像教材・戦時資料、自前の歴史資料を教材で使った。

- 4、三学期は期末テストを行わず、生徒に冬休みの課題として「祖父母・父母の戦争体験」を聞き取りレポートで提出し、教材に利用した。

私は近現代史の授業をするうちに、教科書に頼らず静岡県の近現代史を教えたいと決心した。1978 年「静岡県近代史研究会」を結成し、民衆側からの近現代史を研究目的にした。私は近現代史研究の成果を授業で歴史資料に利用し、会誌『静岡県近代史研究』に以下のような研究論文を発表した。

- (1)、民衆史—無産・労働・農民運動、在日朝鮮人の労働争議
- (2)、子どもと戦争—学童集団疎開、学徒勤労動員、満蒙開拓義勇軍
- (3)、軍事基地—東富士演習場、焼津・静浜基地、戦後基地闘争
- (4)、空襲・原水爆—静岡県の空襲、水爆実験と第 5 福竜丸事件

戦時資料と「戦争と平和」展

私は近現代史研究をする中で、戦時期の資料を収集し実物教材として授業で利用した。戦時資料は古書店で買ったり、生徒の親が協力し寄付してくれたりした。私は高校文化祭で「戦争と平和展」を、藤枝・焼津市で毎年「平和展」

おもしろかったって言っていましたよ。」と言われた際には、うれしかったですね。

農業系や工業系と違い、普通の授業で手を動かして何かを作る時間を入れるのはなかなか難しいのですが、土偶や埴輪を作るこの授業は、生徒自身が作る体験を通して、当時の人々に思いをはせることができる教材で、「探究」の名に適切なものだと思います。今後も、このような教材を増やしていきたいと思っています。2学期に何かをするために、奈良・平安時代から鎌倉時代くらいにかけての時期で何かできないか、それを考えるのが私の夏休みの宿題です。

例会のお知らせ

<9月例会>

日時：9月20日（土）14:00～17:00

場所：Web 会議システム ZOOM/鎌倉文庫

申込方法：9月会報に掲載します。

内 容：ミニ・シンポ「地方自治体と人権・同和教育の現在―“久留米市問題”を考える―」

14:00～14:10 ①橋本誠一（静岡県近代史研究会事務局）

「開会挨拶―シンポ開催に至る経緯の説明を兼ねて―」

14:10～15:00 ②徳田靖之（弁護士／黒川みどり氏代理人）

「久留米市教委の対応の特徴と問題」

15:00～15:10 【休憩】

15:10～16:00 ③黒川みどり（本会会員／静岡大学名誉教授）

「“久留米市問題”から部落問題のありようを考える」

16:00～17:00 ④質疑応答

<10月総会>

日時：10月13日（月・スポーツの日）

総会 13:20～14:00

記念講演 14:30～17:00

場所：Web 会議システム ZOOM/鎌倉文庫

申込方法：10月会報に掲載します。

報告者：平井和子氏（本会委員）

内 容：ジェンダー史の魅力―静岡県近代史研究会との出会いとその後の占領期研究―

<会報に原稿をお寄せください>

現在、手元に原稿のストックがありません。短いものでも結構ですので、ぜひご寄稿ください。

会報原稿は、下記のアドレスにメールで送ってください。但し、掲載号については会報編集担当者にお任せください。どうぞよろしくお願いいたします。

メールアドレス：cq00053@nifty.ne.jp
（会報編集担当：川上）

静岡県近代史研究会会報 第563号（月刊）

2025年8月10日

非売品（非会員は印刷実費100円）

連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室

電話：054-264-5386（直通）

年会費：4,000円（メール会員は3,500円）

ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573

ホームページ：

<https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com/>